

《勞務者渡世 十七号 目次》

一 遊びとひままつぶしと仕事 ————— 2

二 飯場とギャンブル —————

白野善太郎 — 10

三 遊びとヒマ潰しの精神と實際 — 大野屋利兵衛 — 16

四 飛田今昔 —————

沖野奈加志 — 21

釜ヶ崎、新世界、駒更橋、遊び地図 —————

30

五 歩き回った気のついたこと —————

33

六 釜の遊びと二の間覗き —————

篠田修 — 37

七 安く一万円で遊んだことを —————

さしだ — 40

★ 渡世伝を改めぬ ぶむへ土工玉吉、加口レタリア哀愁劇場、やられたらやり返せ — 49

★ 現場から飯場から — 手廻師の権限、他。 —————

★ 讀者の声 —————

53

★ 釜ヶ崎二コース (6月5日) — 57

★ 名古屋の路二つ —————

56

★ 渡世とガ道行本にのりました — 47

いこいこギギ想屋 —————

岡野雲助 — 41

（他 歌）

尾野頭一

有に 二度とは帰らぬ決心も

十日たために 銭は帰らぬ

酒をめば 狂う所の川と知りながら

なびにさまよう 春の街

酒ゆえに 落ちぶれ果てし 我が身をば

寒川と思いて 又酒を呑む

春は 夢ある街さし夢なけりや

とうの昔に 俺は死んでる

（これは横浜コトブキ町で出てくる「有文学」の
 六二号から転載したものです。春と書いてある
 ところを金ヶ崎、西成、東町などに読みかえれ
 ば、実にぴったりしてきます。つまり、どこで
 生きていようと、アニコー春は風太郎、人
 足といやうど — は同じということですね。